

令和2（2020）年度 部局マネジメント方針

にしお けんじ
上下水道局経営企画室長 西尾 健二



仕事に対する基本姿勢及び部局の取り組み方針

経営企画室では、主に上下水道事業における重要施策の総合調整等を行っており、「上下水道事業長期基本計画」や「上下水道事業中期実施計画」などの計画の進捗管理・評価を行うことにより、事業の経営基盤を強化し、健全な経営の推進を目指しています。

上下水道事業を取り巻く環境は、ここ数年で大きく変化しています。少子高齢化による人口減少や生活様式の変化により水需要が減少傾向にあり、給水収益や下水道使用料収入に影響を与えています。さらに2年前の大阪北部地震及び西日本豪雨、昨年国内に甚大な被害をもたらした台風19号など、頻発する災害に対しての備えが求められるとともに、上下水道事業とも事業開始より相当の年数が経過しており、老朽化した施設や管路の更新需要の増加が予測され、経営環境は厳しさを増しています。

今後も上下水道事業を取り巻く環境は日々変化しますが、水は市民にとって未来永劫、欠かすことのできないものであり、こうした水を将来にわたり守り続けていくためにも、公営企業として、健全な経営に努めていかなければならないと考えています。

【令和2年度取り組み方針】

○水道庁舎の整備

水道庁舎整備事業は、企業団への統合を見据えて水道庁舎を建設する方向性とし、現水道庁舎の老朽化及び耐震化対策が急務であることも考慮し、建設工事の早期着工に向けた検討を進めます。

○（仮称）東大阪市新水道ビジョンの策定

持続可能な水道事業を次の世代につなぐために、現行計画「東大阪市水道ビジョン」の計画期間終了（令和2年度）に伴う改訂に合わせ、「東大阪市水道事業経営戦略」の見直しも行い、両計画を統合した新たな水道ビジョンの策定を進めます。

令和元年度の振り返り

○上下水道庁舎の整備

庁舎整備事業は、本市水道事業の課題のひとつである大阪広域水道企業団への統合を見据え、これまでの上下水道統合庁舎の建設ではなく、水道庁舎としての建設について検討を進めました。庁舎整備プロジェクトチームを中心に、水道庁舎建設の方向性として基本方針、庁舎の機能、庁舎の規模、庁舎建設候補地について現在作業を進めております。

○（仮称）東大阪市新水道ビジョンの策定

令和3年度から10年間を計画期間とする、次期水道ビジョンの策定作業を進めています。水道を取り巻く環境変化や、さまざまな課題への対応の方向性を示し、今後の東大阪市水道事業の将来像を描くことを目的として、令和2年度中の完成を目指しています。

作業は、上下水道局内に設置した水道職員による水道事業中長期計画策定委員会を中心に進めていますが、外部の有識者等による東大阪市新水道ビジョン懇話会において作業経過の報告を行うとともに、その内容について、各委員からの意見や提案を計画作りに反映させています。